

第14節 火災対策

1. 火災を防ぐためには

ほとんどの火災は私たちが注意することで防げます。自分や家族が命を落としたり、大切な財産を失うことがないように、火災を防ぐためのポイントを学び、日ごろからみんなで注意し合うようにしましょう。

放火対策を

ゴミは指定された当日の朝、明るくなってから出すなど、家のまわりに燃えやすいものを置かないように。車庫や物置などの戸締りも忘れずに行います。

寝たばこ、ポイ捨ては厳禁

たばこの吸殻を投げ捨てない！たばこの火は水に濡らすなど完全に消火する。室内や布団などの上では、くわえたばこはやめる。ベランダなどでは、風の影響で火種や吸殻が飛ばないように管理します。

コンロから離れない

火がついているものから離れるときは必ず消すこと。コンロのまわりに燃えやすいものは置かない。着衣への着火にも十分注意します。

電気配線・コンセントの点検

使用していない電気製品の電源プラグは、コンセントから抜いておきます。

コードの上に物をのせたり、コードをまとめたり、たこ足配線しないこと。コンセントまわりは定期的に清掃します。

マッチやライターで遊ばせない

子どもには火の正しい使い方、「火の恐ろしさ」をしっかりと教え、子どもの手の届くところにライターやマッチを置かないよう火の管理を確実にします。

ストーブまわりを整理

衣類や布団、カーテンなど、ストーブまわりに燃えるものを近づけないように。近くで洗濯物を干すのも厳禁です。給油は完全に火を消してからおこないます。

住宅用防災機器を活用しよう！

■火災の発生を早く知る

〈住宅用火災警報器〉

煙や熱を感知すると、警報音で知らせてくれます。平成16年の消防法の改正により設置が義務付けられました。

■火災防止に

〈安全装置付調理器具〉

異常な加熱や火が消えた際に、自動的にガスの供給を止めます。

■火災の被害を最小限に

〈防火品〉

火がついても燃え広がりにくい防火品。カーテンやカーペット、寝具、エプロンなど。

119番通報のしかた

① あわてないで119番

「火事です」または「救急です」



② 場所を伝える

〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号

※所在地がわからない場合は、大きな建物、公共施設、交差点の名称、コンビニの名称、自動販売機に貼ってある住所表示などを確認します。



③ 状態を伝える

「〇〇が燃えています」や

「〇〇がどうした」



④ 氏名・電話番号を伝える

「私は〇〇です。電話は〇〇〇〇-〇〇〇〇です」

※携帯電話からの通報の場合、通話終了後もしばらく電源は切らないように！

2. 初期消火は出火直後に！

火災が発生したら、必ず大きな声で周りに知らせると同時に、「通報」「初期消火」「避難」が大切です。優先順位は状況により異なります。出火直後なら「通報」と「初期消火」の優先順位が高くなりますが、そのために逃げ遅れては大変です。あわてず冷静な判断を心がけましょう。万一のために消火器を備えておき、いつでも使えるところに置いておきます。

通 報

大声で周りに知らせ 119 番

- 大きな声で叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたく。
- どんなに小さな火事でも 119 番通報を！

初期消火

出火直後が勝負

- 出火して 3 分以内が自分で消火できる程度の目安
- 火がまだ横に広がっているうちなら消火は可能
- コップに入った水や座布団など、身近なものを最大限に活用する。

避 難

危険を感じたらすぐ避難

- 避難するときは燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断。速やかに行動を！

3. 危険を感じたらすぐ避難

もっとも大切なのは、身の危険を感じたときに一刻も早く避難することです。服装や持ち物などにこだわらず、できるだけ早く避難します。

また、一度逃げたら、絶対に戻らないようにしましょう。

逃げるタイミングは天井への延焼！

避難する目安は、天井まで炎が燃え移ったとき。火が天井に燃え移ると消火器による消火が困難になります。炎が天井に燃え移ったり、消火中に身の危険を感じたりしたら、迷わずすぐに避難しましょう。

[2階から脱出するときは]

ロープや縄はしごを使って避難を。シーツやカーテンをつないだものでも代用できます。やむを得ず飛び降りるときは、ふとんやマットレスなどクッションになるものを落としてから。

[炎の中を通るときは]

迷わずに一気に走り抜ける。濡らしたシーツを体全体に巻きつけると効果的。

[ビルにいるときは]

上の階から出火した場合は、階段を使って下へ逃げる。下の階から出火した場合は、外階段から逃げる。もし、下へ逃げられないときは、屋上の風上側で救助を待つ。エレベーターは絶対使わない。

[地下街にいるときは]

壁ぎわに身をよせ、煙からすばやく逃げます。出口は約60mごとにあるので、壁づたいに逃げる。パニックに巻き込まれないよう係員の誘導に従います。

本当におそろしいのは煙です！

～ 避難のポイント ～

- ぬらしたタオルやハンカチなどで、口と鼻をおおう。(なければネクタイや衣類で代用)
- できるだけ姿勢を低くする。
- 階段では、はったまま後ろ向きに下りる。
- 短い距離なら息をとめて一気に走り抜ける。
- 視界が悪いときは、壁づたいに避難する。